

インターバンクの声（2017 年 2 月 15 日）

昨日の東京市場では、日経平均株価の下げ幅が広がり始めたところにフリン米大統領補佐官の辞任も重なったことでリスク回避による円買いが強まったが、この流れはロンドン市場まで続いた。

ニューヨーク市場に入って、イエレンFRB議長が議会証言で3月の利上げに消極的な発言でもすれば、再び112円台に逆戻りしそうな相場だったが、「利上げを待ちすぎるのは賢明でない」との議長の発言がドルを一気に114円台まで押し上げた。

従来からの米国の年内3回の利上げ見通しが2回になりそうな雰囲気になりかけていたタイミングだっただけに、再び年内3回の利上げ見通しに戻ったことで、しばらくは投資家の意識もドル買いに向かいやすくなりそうだ。

今年の米連邦公開市場委員会(FOMC)では投票権を持たないアトランタ地区連銀のロックハート総裁は、「利上げを急ぐ必要はない」と述べたが、投票権を持つダラス地区連銀のカプラン総裁は、「次の一步を進めてから状況を検証することの利点はある」と述べており、3月の利上げ確率が再び高まったと考えても良いだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。